

## 南アフリカ為替週報

2022年8月11日 | みずほ銀行欧州資金部

## ＜過去2週間の動き＞

(7月28日～8月10日)

USD/ZAR: 16.1200～16.9125  
ZAR/JPY: 7.87～8.20 (参照値)

過去2週間の南ア・ランド相場は、対ドルで、小刻みな上下動から、最終的に上抜け。ドル/ランドの上下動は概ねドル指数(ICE)のそれをなぞっており、南ア側の要因の影響は限定的に見えた。ただ、対円での値動きは、5日までは概ねドル/円のそれを反映しながらも、週明け8日以降、明確にランド堅調と言える推移を見せており、そこになんらかのランド固有の上昇要因を見出すことはできたかもしれない。ドルの上下動は、米連銀公開市場委員会における+75bpの利上げ決定(7月27日)を経て、「噂で買って事実で売る」的なドルの調整安(～8月2日)、米7月雇用統計の予想以上の堅調を受けたドル高(5日)、米7月CPIの明確な下振れを受けたドル安(10日)などが観察された。円は7月14日に対ドルで24年ぶりの安値を更新する139.38まで下落、その後、底打ちから堅調に転じたが、米利上げ決定以降は、2日まで円全面高と言える値動きを続けた。「金利差拡大」の思惑を背景に全面安を続けてきた円が、米利上げ観測の一巡をきっかけに広範な買い戻しを見たということではないか。南ア固有の要因では、与党アフリカ民族会議(ANC)政策大会(7月29日～31日)が、「大過なく」終わったことが最大の好材料。「大過なく」というのは、反ラマポーザ大統領派(ズマ前大統領派)の革新的経済移行(RET)派閥が、「疑わしきは身を引く原則(注1)」「鉱業の国営化」「補償なしの土地接收(EWC)」などの政策に関して巻き返しを見せなかったことを意味する。また、当大会に諮る議題として、南ア電力公社(Eskom)の負債(3,960億ランド)の一部を政府が肩代わりする方針が打ち出されたことも、「不透明感の払拭」という意味で、前後しての南ア国債上昇(注2)や、最終的なランド反発に一定の貢献を果たしたものと考えられた。

## ＜過去2週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
7/29	6:00	民間部門信用(前年比)	6月	+7.53%	+5.86%	+5.34%
	12:00	貿易収支(ZAR)	6月	+24.2bn	+21.2bn	+30.9bn
	12:00	財政収支(ZAR)	6月	+73.8bn	+81.0bn	-17.1bn
8/1	12:15	自動車販売統計(前年比)	7月	+30.9%	+14.8%	+7.6%
8/7	6:00	総外貨準備高(USD)	7月	59.51bn		58.92bn
8/10	9:30	企業景況感指数	7月	110.3		

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

## ＜向こう1週間の見通し＞

(8月11日～8月17日)

USD/ZAR: 15.800～16.250  
ZAR/JPY: 8.20～8.40

向こう1週間の南ア・ランド相場は、もう一段の上昇を予想。4月以降のランド(対ドル)と南ア国債(10年物)の値動きを比較すると、非常に密接な連動を見出すことができる。ランド堅調継続を見込むのは、南ア国債の堅調継続を見込むから。南ア物価には、まだまだ上昇余地が見出せるものの、南ア準備銀政策金利の先行きに関しては、7月央以降、明確な風向きの変化が感じられる。金利先渡取引(6×9ヵ月物、12×15ヵ月物など)は、年内の短期金利頭打ちや来年初にも利下げが始まる可能性を既に織り込んでいる。南ア長期金利の頭打ち→低下(=南ア国債投資妙味)を見出せる環境も整いつつあるのではなかろうか。また、年末のANC党首選に向け、ラマポーザ大統領が着々と党内基盤を固めつつあるように見えることも、ランドには好材料。同大統領が地歩を固めている事実は、大衆主義的政策の封じ込め、電力(発電)自由化の進捗、Eskom救済、国外からの投資誘致促進など、具体的政策の形を取って現れており、自身の再選だけでなく、当6役のほとんど(全てでなければ)を側近で固められるとの見通しが強まっている。それが実現すれば、2024年(5月)の総選挙に向けて、各種改革に一段の弾みがつくはずで、改革の進捗と政治的求心力の高まりの好循環を期待することもできよう。

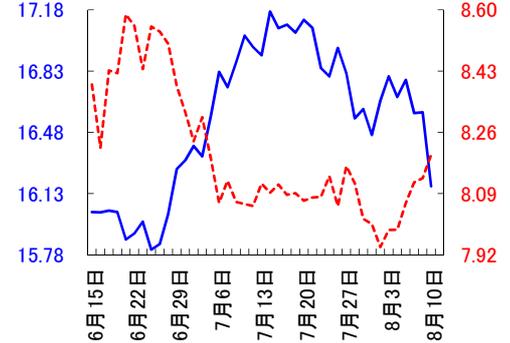
## ＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/11	9:30	鉱業生産(前年比)	6月		-5.0%	-7.8%
	11:00	製造業生産(前年比)	6月		-3.0%	-2.3%
8/17	11:00	小売売上高(前年比)	6月			+0.1%

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

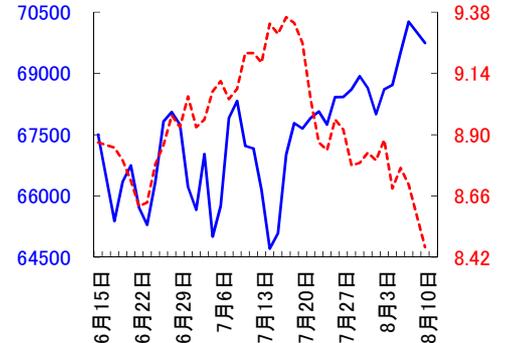
## 為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



## 株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



## 南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レポ金利)		5.50%
長期金利(10年スワップ)	8月10日	8.460%
株価指数(JSE全株)	8月10日	69744.90
成長率(GDP/前年比)	Q1	+3.0%
経常収支(ZAR)	Q1	+143bn
失業率	Q1	34.5%
消費者物価(前年比)	6月	+7.4%
小売売上高(前年比)	5月	+0.1%
製造業生産(前年比)	5月	-2.3%
鉱業生産(前年比)	5月	-7.8%
貿易収支(ZAR)	6月	+24.2bn
金価格(ロンドン17:00)	8月10日	1798.11

(注1) step aside rule

(注2) 利回りは低下

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。